

1 重症熱性血小板減少症候群（SFTS）とは

【病原体】

重症熱性血小板減少症候群

(Severe Fever with Thrombocytopenia Syndrome : SFTS) ウイルス

【感染経路】

主に SFTS ウイルスを保有するマダニに刺咬されることで感染します。

【潜伏期間】

6～14日

【症状】

発熱、消化器症状（嘔気、嘔吐、腹痛、下痢、下血）、ときに、腹痛、筋肉痛、神経症状、リンパ節腫脹、出血症状などを伴います。

【治療】

特別な治療法はなく、症状に応じた対症療法が行われます。

2 マダニとは

マダニは山林や草むら、ヤブなどに生息しており、生息場所に近づいた動物や人に寄生し吸血します。

【生態】

マダニの体長は、種類にもよりますが、成ダニでは吸血前で3～8ミリメートル、吸血後は10～20ミリメートル程度です。

吸血期間は長時間（数日から、長いものは10日間以上）で満腹になると自分から離れますが、それまではなかなか離れません。

【マダニによって媒介される感染症】

マダニによって媒介される感染症としては、重症熱性血小板減少症候群（SFTS）のほか、日本紅斑熱やライム病などがあります。



【写真】 成虫（吸血前）



【写真】 吸血前と後